

土木部現場見学会(8月3日)に参加して

桜井高校 土木部1年 清水田 一真

僕たち土木部は8月3日に国土交通省様の協力により宇奈月ダムの見学や黒部川について行われている事業について実際に足を運びつつ学習させていただきました。その体験の中で印象に残ったことが2つあります。

1つ目は宇奈月ダム見学で排砂の仕組みについてです。黒部川流域の山々は浸食作用が著しく基盤が風化作用を受けやすく保水能力も低い岩によって構成されているため地質的に崩落しやすくそれによってダムの貯水池に多くの土砂が堆積してしまいます。そのため黒部川流域にある出し平ダムと宇奈月ダムでは6月1日から8月31日の間、連携排砂を行います。これを行う理由は3つあり、1つ目はダム機能の維持、2つ目は下流河川の河底低下防止、3つ目は海岸侵食の進行抑制です。そのため宇奈月ダムには排砂ゲートがあり黒部川流域にあるダムの中でも珍しいダムだそうです。また排砂を行う理由のひとつにある海岸侵食の抑制では特にこの排砂が大きな役割をしていて自分の住んでいる近くの下新川海岸の砂浜の侵食も抑制しているということを聞き、こんな身近なところでも役立っているということにはとても驚きました。

2つ目は黒部川における事業についてです。黒部川は他の川に比べて氾濫が多く昔から少しずつ黒部川の改修事業が行われてきました。また氾濫以外にも堤防の破堤や侵食なども引き起こすことがあります。その中で特に大きな改修事業として霞堤があげられます。これはもし黒部川で破堤があったときに洪水を防ぐことや、堤防の外で逆流した水を川へ戻すといった機能を持っておりこれにより急流の河川の対策が行われています。そしてこの霞堤の間にはやすらぎ水路というものがあり、自然に居る魚たちが暮らしやすい環境になっており、鮎などの魚も見たりできるので人々の憩いの場となっているそうです。また今行われている事業としては縦工の設置があり、これを設置することによって海岸への侵食を防ぐことができます。この縦工もまた自然への配慮がなされており、自然をととても大切にしているのだなと思いました。

このように黒部ダム流域で行われている事業はとても工夫がなされており、暮らしが快適になるように日々努力していることが伝わってきました。自分もこの体験を通して人のためになれる仕事をやって生きたいなと思いました。